

ラジオ沖縄 2014 年度 第 1 回番組審議委員会議事録

◇開催日時：2014 年 4 月 17 日（木）15：00～

◇開催場所：（株）ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数：8 名 出席委員：4 名

◇出席委員：委員長/豊川あさみ 副委員長/上原康司、友利郁子、新城亘

◇放送事業者側出席者：制作報道部番組審議室・制作報道部長兼審議室長/前川英之、制作報道部番組審議室/與儀進

◇審議議題：平成 26 年 4 月番組改編について

◇議事の概要：局側から 2014 年 4 月番組改編について説明し、意見を述べ合った。

<局側説明>

平成 25 年 6 月に実施した県内ラジオ 3 社合同の聴取率調査では、前回の平成 23 年の調査に比較して全体的に底上げすることができた。平日 60 分単位で見た場合、前回の調査よりも下がったのはわずか 3 か所で、同数字は 2 か所だった。土曜日でも下がったのは 3 か所、日曜日は上がった所と下がった所が半々となったが、一日を通してみれば全体として数字が底上げされている。この他、朝の開拓を目指して 4 月にスタートした「SPLAH!!!」が各時間とも前回は上回る好調さをみせている。特に朝 8 時台は、前回負けていた他局を大きく上回ることができた。ただ他局と比べて弱い時間もあり生活のスタートとなる時間だけに、さらなる内容の充実が求められる。朝 9 時～12 時までの朝と午後 4 時から 6 時の夕方時間帯は、専門家のゲスト出演やニュースの時間を多くするなど、聴取者への情報量を増やし、聴取率の底上げを狙って新番組をスタートさせた。日曜日の新番組は、若手お笑いタレントを起用し、公開放送に対応する内容とした。それに伴い民謡番組は、民謡ファンの声に応えるため月～金の夜の時間に移動した。土曜日に、宮城県出身の「サンドウィッチマン」の二人が、完全復興に向けて頑張っている人達のメッセージを紹介する番組をスタートさせた。

<主な改編の内容>

□新番組

1) 「ピントと! Style」(月～金・9 時 30 分～11 時 50 分)

■パーソナリティ：高江洲牧子(月・水・金)、DJ モーリー(火・木)

2) 「Island Today」(月～金・16 時 30 分～19 時 00 分)

■パーソナリティ：金城奈々絵(月～木)、久高成矢(金)

3) 「サンドウィッチマンの東北魂」(土・18 時 05 分～18 時 15 分)

■パーソナリティ：サンドウィッチマン(ニッポン放送制作)

4) 「日曜戦士サンデマン」(日・9時30分～11時40分)

■パーソナリティ：宮田隆太郎

5) 「サービスサンデー」(日・13時00分～15時30分)

■パーソナリティ：リップサービス、江川葉月、しんとすけ

□パーソナリティ変更等

1) 「チャットステーションL」(月～金・14時00分～16時00分)

■金曜日は、玉城美香から小橋川結子へパーソナリティ変更。

2) 「民謡の花束」(火～金・21時00分～22時30分)

日曜から火～金曜へ曜日変更。

■パーソナリティ：当銘由亮(火)、宮田隆太郎・宮城梓(木)松田一利(金)

<審議概要まとめ>

- ・いいものは若い人にも受け入れられると思う。もし、ラジオ沖縄が持っているなら、(名優の出ている古い沖縄芝居などを)リバイバルで聴かせてみたらどうだろうか。最近では、「しまくとぅば」(沖縄方言)に関心が高まっているような印象がある。活字媒体ではできない、音の強さを生かして(沖縄方言)普及活動を盛り上げてみてはとの提案も結構ある。ラジオでも(沖縄方言を)意識的に取り上げてみてはどうだろうか。
- ・教育問題など専門的な話をする人の人選は、もう少しリサーチが必要で、検討すべき課題かと思う。放送で事実と違うこと言っている番組があった場合は、局側でも聴いてチェックしてほしい。
- ・災害時にはラジオは必要だと思う。「家庭に一台、ラジオを常備」というようなキャンペーンをやってみたらどうだろうか。

ラジオ沖縄 2014 年度 第 2 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2014 年 5 月 15 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:6 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ、副委員長/新城和博、副委員長/上原康司、松田克也、友利郁子、新城亘

◇放送事業者側出席者:制作報道部番組審議室・制作報道部長兼審議室長/前川英之、制作報道部番組審議室/與儀進、制作報道部・アナウンサー/小橋川結子

◇審議議題:「アートパレット」聴取合評

◇議事の概要:毎週日曜日の午前8時15分～8時30分に放送されている「アートパレット」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

実は沖縄は芸術家の宝庫。しかし、若手アーティストの発表の場は少なく、あまり関心を持ってもらえていないのが実情。そこで、アートの面白さ、楽しさをもっと知ってもらい、関心を持ってもらおうと企画した番組。アーティスト本人へのインタビューや専門家を招き、アートの実情を分かり易く解説。今回の番組審議委員会では、平成26年4月27日と5月18日、2回分の放送を聴取していただいた。

出演:小橋川結子(ラジオ沖縄アナウンサー)

4月27日放送/ゲスト:那覇造形美術学院・黄金忠博さん

5月18日放送/ゲスト:陶芸家・国吉清雲さん

<審議概要まとめ>

- ・とても意義のある番組だと思う。こういう情報番組はあまりないので聴取者にも貴重な機会になるのではと感じた。曜日の朝に放送というのは、午後から動けるのでいい時間だと思う。
- ・人物の紹介、トーク、問い合わせ先、展示会の紹介まであって、15 分間の中でうまく完結している。審議会を通じて、音の力というのを常々感じているが、(アーティスト)本人の生の声が聴けて、絵や陶芸に対する思いが伝わってきて非常に良かった。
- ・アーティストを応援する意味でも、展覧会の一週間ぐらいに取り上げる必要がある。芸術を志向する若い人が減っていると聞くので、若いアーティストや高校の芸術系の発表会などを取り上げると底上げにもつながるのではないかと。切り口ややりかたは沢山あると思う。時々、1 時間程の特番をやってみるのも面白いのでは。
- ・色の見えないものをラジオで放送するのは難しい。作品などの色合いや質感などを説明するのは必要だと思う。

ラジオ沖縄 2014 年度 第 3 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2014 年 6 月 19 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:4 名

◇出席委員:副委員長/新城和博、島田勝也、友利郁子、新城亘

◇放送事業者側出席者:制作報道部番組審議室・制作報道部長兼審議室長/前川英之、制作報道部番組審議室/與儀進、制作報道部ディレクタ/中村雄一郎

◇審議議題:「篠宮龍三 One Ocean ～海はひとつ～」聴取合評

◇議事の概要:毎週金曜日の午後10時30分～11時00分に放送されている「篠宮龍三 One Ocean ～海はひとつ～」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

フリーダイバーとしてアジア記録を持つ篠宮龍三氏が、自身の経験や毎週お招きするゲストとのトークを中心にお送りするトーク番組。沖縄や各地の海の魅力を再発見し、沖縄を中心に活躍されている方から魅せられている理由を語っていただくことで、海の匂いを感じられるようなラジオを目指している。今回の番組審議委員会では、平成26年5月30日放送分を聴取していただいた。

出演:篠宮龍三

(昭和51年生れ。埼玉県出身。国内唯一のプロフリーダイビング選手として国際大会を中心に参戦中。「One Ocean ～海はひとつ～」を自身のメッセージに掲げ、海洋保護を訴える様々なイベントのプロデュースも行っている。競技活動の傍ら、スクールや大会も運営。)

小橋川結子(ラジオ沖縄アナウンサー)

平成26年5月30日放送/ゲスト:海人写真家・古谷千佳子

<審議概要まとめ>

楽しく聴かせてもらった。海からの視点(の番組)はあまり無いように思う。そういう意味からも、大変貴重だと思う。「海の匂いを感じられるようなラジオを目指している。」との説明があったが、その通りの番組だと思う。沖縄の海に魅せられて、沖縄にやってきたことや、沖縄の人達に自然に溶けこんでいるのをとても感じた。

ダイバーだけでなく海に携わる色々な職種の人を呼んで話をすると良いのではないかな。また、フリーダイビングの話も聞いてみたいし、移住者の視点での沖縄の話も面白いと思う。どんなゲストが来ても、「海」というテーマが貫かれ、篠宮さんのような水深 100 メートルの世界を知っている人間しか訊けないようなことも、そこで語られる事を期待したい。冒険家としての篠宮さんでなければしゃべれない個人の体験談も聴いてみたい。

ラジオ沖縄 2014 年度 第 4 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2014 年 7 月 17 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:6 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ、副委員長/新城和博、副委員長/小那覇安剛、松田克也

◇放送事業者側出席者:制作報道部番組審議室・制作報道部長兼審議室長/前川英之、制作報道部番組審議室/與儀進、制作報道部・ディレクター/阿利貴子

◇審議議題:「ぬちぐすい女子会」聴取合評

◇議事の概要:毎週日曜日の午後3時30分～4時00分に放送されている「ぬちぐすい女子会」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

平成24年10月から放送開始。プライベートでも仲の良い「なおぴん」「泉&やよい」の3人がタッグを組み、日曜日の午後を楽しく盛り上げるトーク番組。お悩みを引き受けるだけの「婦人部休憩室」のコーナーでは、部長(やよい)、組合長(泉)、OL(なおぴん)にそれぞれが扮し、とある企業の休憩室で繰り広げられる昼休みの光景を演じる。今回の番組審議委員会では、平成26年7月13日放送分を聴取していただいた。

出演:なおぴん(宜野湾市出身。短大を卒業後、那覇空港のグランドホステスを経て、不登校の子供たちのカウンセラーをしながら「フーピンバンド」、ジョニー宜野湾とアーティスト活動やテレビ、ラジオ、イベントの司会なども行う。)

泉&やよい(昭和63年に喜舎場泉と城間やよいが、大学生時代に結成した漫才コンビ。平成12年、沖縄方言や沖縄のスラングを使ったコントや漫才が話題になり、テレビの特番出演をきっかけに、沖縄県内のマスコミで取り上げられ、大学卒業と同時にプロとして活動開始。沖縄県内のテレビ・ラジオ番組、イベント、舞台、CMなど多数出演。)

<審議概要まとめ>

脈絡が無く、どう先に進むか分からないのが良い。ポンポン出てくる沖縄方言も(普段)使っている人達の言葉で出てくるので気持ちがいい。ローカルの娯楽番組としては良いのではないかと思う。女性がつくる女性の番組、井戸端会議や居酒屋でしゃべっているような感じがする。このライブ感を大事にした方がこの番組は生きる感じがする。

40代から少し上の世代であれば楽しく聴けると思うが、20代とか30代半ばの人達はどうか非常に興味がある。学生にラジオを聴かせるのが課題となっているが、何を聴くかと考えると「ぬちぐすい女子会」の様な番組ではないかと思う。

前半、暦を読み上げていたが、沖縄の出来事も取り上げるのであれば、「沖縄の何年前に何があった」と言う様に色々出てくると思うので、それから話題を広げていくのも面白いのかなという気もする。

「婦人部休憩室」コーナーでは、それぞれのキャラクターが変わっていないので違いが分かりづらい。(番組は全体的に)3人で楽しそうにやっけてはいるが、もう少しメリハリをつけると聞きやすくなるのではないか。後半の「婦人部休憩室」コーナーだけでも、頭に残るようなテーマや話題があるといいのではないか。

ラジオ沖縄 2014 年度 第 5 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2014 年 9 月 18 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:4 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ、副委員長/新城和博、松田克也、島田勝也

◇放送事業者側出席者:代表取締役社長/森田明、制作報道部番組審議室・制作報道部長兼審議室長/前川英之、制作報道部番組審議室/與儀進、制作報道部・ディレクター/屋良美帆

◇審議議題1):「タマアゲ」聴取合評、

◇審議議題2):「ラジオ沖縄番組基準」の一部改正について諮問

◇議事の概要1):毎週土曜日の午後11時00分～11時30分に放送されている「タマアゲ」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

◇議事の概要2):「ラジオ沖縄番組基準」の一部改正について諮問し、審議、答申を行った。

<局側説明>

平成26年4月から放送開始。番組タイトルは「タイトルは未定ですが、マンガ・アニメ・ゲームを取り扱った番組です。」の略。10代～20代の男女をターゲットに、マンガ・アニメ・ゲームの話を中心に、好きな事を好きなだけ語り倒す、“妄想系”トーク番組。週替わりでテーマを設定。ツイッターとも連携して番組を展開している。今回の番組審議委員会では、平成26年9月6日放送分(第1週目)を聴取していただいた。

1週目・・・今月発売の新刊コミックスの中から、気になるタイトルをベスト3にして発表。

タイトルだけで、どんな作品かを勝手に想像する。

2週目・・・最近、気になるアレコレを紹介。

3週目・・・少女マンガに出てきそうなセリフをテーマに妄想。

4週目・・・リクエスト曲を中心に構成。

出演:あばちゃん、伊達氏、マイオニー姐さん

<審議概要まとめ>

<審議議題1>「タマアゲ」聴取合評

(私に)全く理解できないということは、逆にとても好きな人もいるのだろうと思う。ラジオ沖縄の未来に向けて、アニブームの中で先取りするということは、理解ができない人がいるというのかもしれないかと思う。この番組のニーズはすごくあると思う。ラジオと若い層との接点になり、市場を開拓する感じになるといいのではないか。ラジオ沖縄としてチャレンジブルな番組で、後に続く番組のファン層を切っている状況が起きていないか気になるが、新しいマーケットを開拓するのは必要だと思う。(しゃべりに)スピード感があって、聴きやすい。3人での決まり事があるんだろうなあという気がして、話がかぶらないで進んで行くのは良いと思った。

<審議議題2>「ラジオ沖縄番組基準」の一部改正について諮問>

民放連の放送基準が一部改正され、平成 26 年 11 月 1 日に施行されることになった。これを受けて、民放連の放送基準を準用する当社では、番組基準を一部改正する手続きが必要となり、放送法の規定に従い、番組審議会に諮問し、審議を行ったが「諮問事項は妥当である」との答申が得られた。

ラジオ沖縄 2014 年度 第 6 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2014 年 10 月 16 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:6 名

◇出席委員:委員長/新城和博、副委員長/小那覇安剛、松田克也、友利郁子、新城亘、新垣操

◇放送事業者側出席者:代表取締役社長/森田明、制作報道部番組審議室・制作報道部長兼審議室長/前川英之、制作報道部番組審議室/與儀進、制作報道部・ディレクター/波平勇氣

◇審議議題):「NANBUアワー」聴取合評、

◇議事の概要):毎週日曜日の昼12時10分～1時00分に放送されている「NANBUアワー」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

平成21年4月から放送開始。「片方はちゃー(ずっと)しゃべりー、片方はちゃー笑いー」の玉城美香、津波信一の沖縄本島南部出身の2人が送るトークバラエティ番組。内容は、リスナーからのメッセージで構成。現在、コーナーを3つ設け、「給食係」は県内のおすすめ店を紹介、リスナーのお昼の参考になるような情報をお届けする。「模合の窓」はリスナーからの模合話を紹介。「掲示係」は街のおもしろ看板や、地域の行事などを紹介。今回の番組審議委員会では、平成26年10月5日放送分を聴取していただいた。

出演 玉城美香(沖縄県糸満市出身) 津波信一(沖縄県南城市(旧佐敷町)出身)

<審議概要まとめ>

・軽快なしゃべりと笑いが特徴的な番組。リスナーからの生の情報提供もうまく取り上げられていると思う。こんなにタウン情報が入っている番組も無いのではないか。「模合」を取り上げたのはすごいと思う。それぞれの模合の表情や特色が出ていて興味深く聴いた。とても楽しい番組なので続けて欲しい。

・「NANBUアワー」といいながら、沖縄の離島や沖縄本島中北部など、色々な沖縄県内の話題を違和感なく、「ナンバー」(沖縄本島南部出身者)のフィルターを通して発信しているのは2人ならではなんだろうと思う。

・最初の話が分かりづらい、何を強調しているのか分からない。(玉城美香の)笑い声は明るく爽やかであるが、話している内容を消しゴムのように消している感じもするが、リセットして、リスナーの耳を絶えず新しい感覚にさせている役割もあるのかと思う。・3つのコーナー自体が独立してメリハリがついていない。また、「軽快」という部分に、付いていけない人の場合、(パーソナリティ二人の)笑いや会話が、どこまでチャンネルを変えずにいられる力になっているかというのも少し気になる。新しいリスナーを開拓していく時には、ここにメリハリをつけるというのも良いかと思う。

ラジオ沖縄 2014 年度 第 7 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2014 年 11 月 15 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:7 名

◇出席委員:委員長/新城和博、副委員長/小那覇安剛、島田勝也、中村聡、友利郁子、新城亘、新垣操

◇放送事業者側出席者:制作報道部番組審議室・制作報道部長兼審議室長/前川英之、制作報道部番組審議室/與儀進、制作報道部・ディレクター/仲宗根妃花留

◇審議議題):「ピンと! Style」聴取合評、

◇議事の概要):毎週月曜日～金曜日の午前9時30分～11時55分に放送されている「ピンと! Style」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

平成26年3月31日から放送開始。子育て・食・暮らしに関わる法制度(年金や手当など)・加齢に伴うカラダの変化相続・仕事・美容・介護など、お得な情報や役立つ暮らしの知恵を求めているリスナーのアンテナがピン!と立つような情報を発信し、暮らし上手になるヒントを提案する生ワイド番組。今回の番組審議委員会では、平成26年8月27日(水)放送分(出演:高江洲牧子)を聴取していただいた。

【コーナー紹介】

イロドリみどりさん/素朴な疑問や知っていると得をする暮らしの情報を、その道の専門家をゲストに迎えてテーマに沿っておしゃべりをする。ゲストは、各曜日担当1人で、それぞれにレッスンテーマを設けている。

(今回のテーマ:「不妊」について)

〇〇事件簿/月曜なら「月曜事件簿」、火曜なら「火曜事件簿」というように、イロドリみどりさんの内容とリンクしたメッセージテーマで、リスナーからのメッセージを募集し、紹介。

<審議概要まとめ>

・パーソナリティの声は、落ち着いたトーンのおしゃべりで朝に向いていると思う。番組の導入部分が少し回りくどい感じがした。朝であれば話にもう少しメリハリが欲しいと思った。何か刺激が欲しい感じもした。

・「イロドリみどりさん」のコーナーは、今回の「不妊」のような重たいテーマでも、分かりやすく、非常に親しみを感じた。どうしていいか分からなくて悩んでいる時、専門家の一言はすごく大きいと思うので、誰を対象に、何をテーマに、うまく伝えていけるのか、是非とも考えていただきたい。健康面やメンタル面の専門家の方が多気がするので、もう少し華やかなファッションや映画の話題があってもよいのではないかな。

・「事件簿」のコーナーで、運転中のスマホの話が出たが、ラジオで曖昧なことを言うと、(聴取者が)「やってもいいのかな」と思ってしまうので、禁止されていることは明確に言って欲しい。

・パーソナリティの持っているものが男女では違うので、一週間のうちにリスナーへの回答などで変化があるのは良いと思う。

ラジオ沖縄 2014 年度 第 8 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2015 年 1 月 15 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:6 名

◇出席委員:委員長/新城和博、島田勝也、松田克也、友利郁子、新城亘、新垣操

◇放送事業者側出席者:制作報道部番組審議室・制作報道部長兼審議室長/前川英之、制作報道部番組審議室/與儀進、制作報道部・アナウンサー/杉原愛

◇審議議題):「愛のぞっこん！うちなーアスリート」聴取合評、

◇議事の概要):毎週土曜日の午後3時30分～3時45分に放送されている「愛のぞっこん！うちなーアスリート」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

平成26年10月から放送開始。スポーツに一生懸命な学生にインタビュー、応援することで、県内の学生スポーツをさらに盛り上げることを目的に企画。また、若いエネルギッシュな声をラジオから届けることで、様々な年代の人に元気を与えることも意図している。2週に渡り、各高校のひとつの部活を取材し、大きな大会前には、その大会に向けての特集も組んでいる。番組は主に4つのコーナーで構成。

<審議概要まとめ>

・インタビューがうまい。大変面白く聴け、15分があっという間に過ぎてしまった。

さわやかさを感じる好印象の番組。元気な(高校生)の声は視聴者にしっかり届いていると思う。

・優等生的な感があるので恋愛などの話もいれてみるのは面白いのでは。

また、スポーツは楽しいものだと思うので、楽しくどう伝えるにはどうしたらいいか 研究すべきではないか。

一年かけてチームを追いかけ、1時間の特番をつくってもいいのではないか。

・スポーツ好きでない方を引き込む工夫も、もう少し必要かと思う。

紹介する部活の活動内容、「どういう競技で、どういう大会があって、どういう成績を出していますよ」というのを報告してあげるのもいいのではないか。

・番組が淡々としてしまう可能性があるので、メリハリのつく(先生などの)大人のコメントも入れるといいのではないか。

ラジオ沖縄 2014 年度 第 9 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2015 年 2 月 19 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:5 名

◇出席委員:委員長/新城和博、副委員長/小那覇安剛、島田勝也、松田克也、友利郁子

◇放送事業者側出席者:制作報道部番組審議室・制作報道部長兼審議室長/前川英之、制作報道部番組審議室/與儀進、制作報道部・ディレクタ/阿利貴子

◇審議議題):「イチキロヘラス！」聴取合評、

◇議事の概要):毎週日曜日の朝7時45分～8時00分に放送されている「イチキロヘラス」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

沖縄の健康生活を応援することを目的に、沖縄テレビ、琉球新報社、ラジオ沖縄の3社合同で企画された「健康うちなー未来プロジェクト・イチキロヘラス」。各社3名ずつのダイエットチャレンジャーでのダイエット作戦の他、ラジオ沖縄では毎週日曜日、「イチキロヘラス」で手軽で健康的な食の話題等を提供。今回は、平成26年12月21日放送分を聴取していただいた。

出演:DJもーりー(儀保盛充) ゲスト: 林優美(管理栄養士) テーマ「健康スナック」。

<審議概要まとめ>

・カロリーの計算の仕方であるとかやっていて、良いと思うが、受け流して「そうだよな」と終わってしまう可能性もある。やや単調で、ネタ探しに苦労している感じがする。(番組を)主体的にやっているように聴こえてこない。やらされているような印象を受けた。

・番組名はインパクトがあったが、番組を聴いてみると、人が興味を示すような、もっと新しい話題がないのかなと思った。ダイエットの失敗例などを3社で特集するのも面白いのではないか。メタボリックや体重を減らすことだけでなく、普通に生活しながら、足腰や頭なども含め健康の質を高めることのアピールも必要ではないか。

・「イチキロヘラス」のテーマ曲はインパクトがあるので、何気なく聴きながら、「(健康を)管理していこう」とか、「(ダイエットを)がんばらなきゃ」と心に留めるのではないかと思う。沖縄の長寿社会をつくるために、ラジオ沖縄が率先して曲もつくっているのは好感を持った。

ラジオ沖縄 2014 年度 第 10 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2015 年 3 月 19 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:6 名

◇出席委員:委員長/新城和博、副委員長/小那覇安剛、島田勝也、松田克也、中村聡、新垣操

◇放送事業者側出席者:制作報道部番組審議室・制作報道部長兼審議室長/前川英之、制作報道部番組審議室/與儀進、制作報道部・アナウンサー/金城奈々絵

◇審議議題):伊良部大橋開通特別記念番組「うぷゆう～島の未来にかける橋」聴取合評

◇議事の概要):平成27年3月1日(日)に放送された、伊良部大橋開通特別記念番組「うぷゆう～島の未来にかける橋」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

2015年1月31日、伊良部島と宮古島を結ぶ、伊良部大橋が開通。これまで伊良部島に住む人々は、離島であるが故に、医療や教育、福祉の面で「しまちゃび」(離島苦)を味わい、過疎化や産業の衰退に悩まされてきた。3部構成の番組では、開通を喜ぶ島民の声や、島のくらしを見続けてきた宮国かまどさん(107歳)の声。「フライアッシュ(火力発電で石炭を燃やす際に生じる灰を再利用したコンクリート)」を県内で初めて活用した橋の側面も伝え、島の生活を支え続けた定期高速船「うぷゆう」の最終運行に伴うセレモニーの様、また橋の開通をきっかけに新たな観光ツアーを企画するなど、地域の活性化を目指し奔走する人々を紹介し、島の未来を展望する。

ナレーション・取材担当:金城奈々絵

<審議概要まとめ>

・インタビュー、ナレーション、音楽、波などの効果音が網羅され、ラジオ・ドキュメンタリーの可能性の大きさと魅力を非常に感じた。情報過多ではなくて、受ける側のイメージを掻き立て、伝えるのは、ラジオの報道番組の形だと改めて新鮮に感じた。ラジオのドキュメンタリーは、テレビや新聞とは違う感じの「生々しさ」という、ラジオならではのテイストがあって良いと思った。3部構成だが各部のつながりが自然で濃密な感じがした。

・ローカルだからできることという部分はすごくできていると思った。報道としては分かりやすく大変すばらしいと思った。

・島の高校生や橋の役割など、1年後、3年後がどうなるか気になった。ぜひ追いかけて(取材して)欲しい。